



杉並景観録 Keikam-Roku SUGINAMI Keikam-Roku

第七号



●発行日 平成14年3月11日  
●発行 杉並区都市整備部まちづくり推進課  
TEL.3312-2111(代) 内線3515

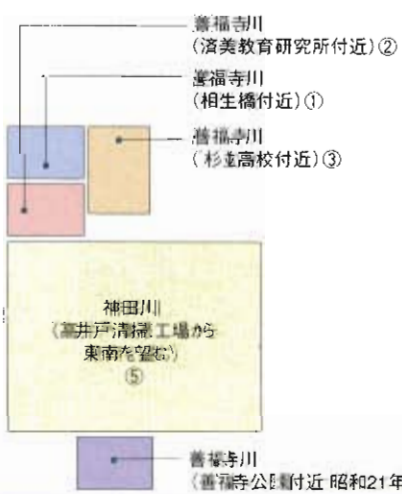


川のようになややかに……

季節が変わると共に、街の景色はその姿を変貌させてゆきます。その季節しか出会えないたいせつな風景。自然の移り変わりを肌で感じるこの出来るこのまちで、わたしたちはまた新しい季節を刻んでゆきます。川沿いの遊歩道に並ぶ木々達、季節が訪れる毎に、その色合いを変えてゆきます。冬は真っ白に、春は桜色に、夏は瑞々しい早緑色に、秋は枯葉色に……。その都度、川も色を変じ、自然の中で共に仲良く移り変わってゆきます。しなやかに、ゆっくりと。そうして静かに時代は流れてゆくのです。

2002年

私たちは、川の流れるように、しなやかに、そして確かに一歩一歩あゆみを進めてゆきます。



## 立教女学院

アメリカ聖公会から派遣された宣教師 C. M. ウィリアムズによって、明治10年(1877)、湯島に立教女学校として創設されました。関東大震災の影響により大正13年(1924)に現在の久我山に移転しました。創立者ウィリアムズの、「自分を誇ることなく他者に仕える」生き方は、そのまま立教女学院の教育の理念として現在に伝えられています。今年、新しい世紀にふさわしい学び舎の小学校、中学校などの建物が完成しました。現在、小学校、中学校、短期大学に合せて約2000人の女子生徒が通っています。

**春**  
会議室にあるステンドグラスから春のやわらかい光がほのかに色をおびてさし込みます。このステンドグラスの中央には11世紀のスコットランドの王妃となった聖マーガレットが微笑んでいます。立教女学院短期大学の英語名は彼女の名前に由来したものです。

**夏**  
木々が力強く葉を上げられます。学院の中は豊かな自然に恵まれ、敷地内には松や杉、榎などの常緑樹や、けやき、楓、ムクなどの落葉樹を含め、多くの種類の木々が見られ、その中には樹齢70年以上の大木もめずらしくありません。

**秋**  
学院の秋は学園生活の中であたたかしくかけぬけていきます。記念礼拝、マーガレット祭のなど行事が行なわれます。それが終わると、武蔵野の面影が残る学院に静かな秋が訪れます。

**冬**  
純白の雪がロマネスク調で創られたマーガレット礼拝堂を包みます。礼拝堂は1932年に建てられたもので、クリスマスには荘厳なパイプオルガンをバックに聖歌が歌われます。また、中庭の大きなヒマラヤスギの木には色とりどりの電球が灯され、クリスマス喜びが学院中に広がります。礼拝堂は日曜日には地域の人たちが卒業生などに利用されています。

# 立教女学院の四季 高台に映える 赤い瓦の屋根



坂下門



マーガレット礼拝堂



会議室のステンドグラス



立教女学院の近くにある、壁を開放し個展も開けるようにしている喫茶店。絵画が目を楽しませてくれ、会話も自然と弾みます。



それはなつかしい光景でした。店の中はいぐさの香りに包まれ、針を持つ手にも力が入ります。



店先の段差を利用してアプローチに飾りつけられた、ツタや花などが建物と調和してまちにうおいをあたえてくれます。



## 電車の風景

小さい頃、そう、まだ時間がゆっくりと流れていたあの頃、踏み切りを母の手にひかれながら渡った思い出がよみがえる。今は果てがあると分かっている線路も、あの頃には果てしの無い恐ろしく長いものだと思っていた。

「何処まで続いて居るのだろう」そんなことを心に抱きながら、わくわくして踏み切りを渡ったのを覚えている。

杉並区の南のまちをつなぐ京王井の頭線は明るい私鉄沿線のイメージで人気がある。線路沿いには、沢山の木々が植えられ、季節ごとに新しい風景を楽しむことが出来る。周辺の住宅地とも不思議に調和していて、何故だかほっとさせられる。街にとってかけがえの無い存在だ。

小さい頃のように、久しぶりにぽかんと線路を眺めてみた。何処までも続く線路。

私たちをつなぐもの、私たちがたいせつな足は、今日も変わらずそこにある。



# すぎなみ／ひと／まちなみ

SPECIAL EDITION



## KUGAYAMA



川やみどりが身近に  
感じられるまち

### 久

我山は杉並区の南西に位置しています。北は宮前、松庵、南は世田谷区、東は高井戸西、西は三鷹市に囲まれ、旧久我山村の全域と上高井戸村の一部から成ります。ほぼ中程を神田川が西から東に流れ、川に沿うように京王井の頭線が走り、これに交差して人見街道が東西に通じています。

昔は杉並のチベットと呼ばれ、畑が広がっていた久我山界隈も昭和8年に井の頭線が開通し、戦後は農地の宅地化が進み、都心部のベッドタウンとして発展してきました。

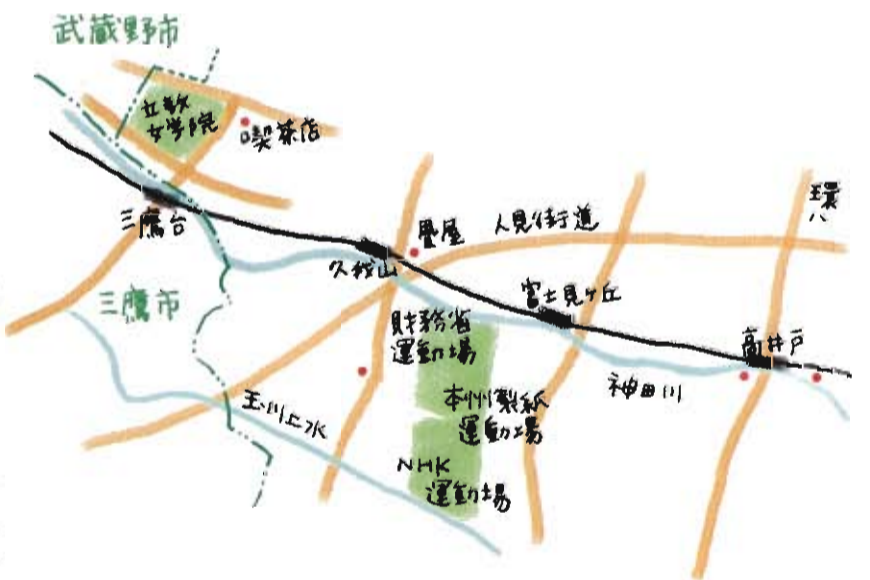
京王井の頭線の富士見ヶ丘駅や久我山駅周辺は、駅から伸びる路線型の商店街とその後背地に広がる低層住宅地から成り立っています。

三鷹台駅の北には、閑静な住宅地の中に井の頭線が開通するよりも古い



歴史があるみどりに囲まれた学校が見えます。久我山駅から南に商店街を抜けると上水としての役目を終えた玉川上水が今も流れ、美しいグリーンベルトの散歩道になっており、また、久我山二丁目には旧農家の屋敷林や企業や官庁のグラウンドがあって、みどりが多く見られます。

## 久我山 界隈



### 神田川の散歩道

「神田川」  
思いのこもった川です

### 高

井戸駅付近の神田川には、たくさんの水草のある河床や、人が優先して歩ける遊歩道があり、散策を楽しむことが出来ます。春になると、桜の名所に変貌し、忽ち華やいだ雰囲気になるので



す。開花時期にはさながら桜のトンネルとなり、幻想的な空気があたりをたちこめます。一斉に咲き誇る桜の美しさは、京王井の頭線の車内からも眺めることが出来、その様は本当に見事で、通学、通勤途中の忙しい人々の気持ちを一瞬にして和ませるほどです。

桜の他にやまももの木があり、暗赤色の美しい実をつけます。なかなか見ることのない珍しい風景ではないでしょうか。また、川の中に花壇があり、四季折々の花が咲き、その狭間を悠々と真鯉や緋鯉が泳いでいます。子供たちの「コイだ、コイだ」というにぎやかな声と、ゆつくりとしたゆとう紅い魚影が、遊歩道上でジョギングや散歩する人々の心はずませてください。

季節ごとくその姿を変えていく神田川は、わたしたちを楽しませ、時に心を和ませてくれます。

「神田川」はいつもそこに暮らす人々のそばにある、思いのこもった川です。

N E 杉並景観録 W S



## 記念館が リニューアル しました

大田黒公園記念館は、昭和8年に建てられ、当時としては珍しい構造と意匠をもった西洋風の建築物です。

記念館は、大田黒元雄氏が長年にわたって音楽活動を続けていた仕事場で、昭和56年の公園整備時にそのまま保存されました。

しかし、建物が老朽化しており、安全性を確保するため耐震調査を行ない、補強工事を実施しました。

実施にあたっては当時の面影を残すため、使われている材料をできるだけ再利用すると共に空調設備も目に付かないよう工夫しました。

昨年の11月に行なわれたまちづくりイベントでは、リニューアルした記念館の一般公開をしました。また、記念館では弦楽コンサートとピアノコンサートが行なわれ、参加された方々からは「音響効果が良くなった」「壁の雰囲気懐かしい」などの声が聞かれました。

まちかど  
スケッチ

**生垣と土蔵のまちなみ**  
 萩窪駅西口から五分程いた、環状八号線のけんそうりが消える  
 丹り坂の途中にたまたま。  
 みごとな梅の木、その尻元のきれいに刈り込まれた生垣、  
 下草とかん木が植え込まれた土壁が道ゆく人の視線に  
 とまる。生垣は玄園へと続き、風雪に洗われた石段と  
 入母屋屋根の玄園が宿を運え入れる。みごとなアプロチ  
 の演出である。  
 道から見上げた時に、屋根瓦のにおい、銀の風合い  
 と青空の、みごとなイメージを奏でていた。

## 第8回 杉並「まち」 デザイン賞 候補募集

区内の「まち」で見つけた  
すてきな建物やまちなみなどを  
お知らせください。  
皆さんの推薦をもとに選定し、表彰します。  
自薦・他薦を問いません。

- 推薦対象**
- 現存する建物  
(住宅・店舗など)
- 工作物  
(看板・柵・ベンチ・植え込みなど)
- 地域活動  
(まちなみを魅力的に演出している団体など)
- 推薦方法**
- はがき、電話、FAXで、まちづくり推進課まで  
下記の事項をお知らせください。
- ・推薦する建物などの所在地、住所
- ・推薦理由(簡単なコメント)
- ・あなたの住所、氏名、電話番号

**締切**  
平成15年5月末日

**発表**  
平成16年2月頃に広報、  
リーフレットでお知らせします。



編集  
後記

まちと人のつながりを考える良い機会を与えていただきました。新しい発見に満ちた素晴らしい時間でした。

ゼミの文集「わだち29号」の編集期間と重なってしまい思うように進まず、担当者の方々にはご迷惑をかけた。取材や編集につきましては、様々な素晴らしい出会いに恵まれたことを御礼申し上げます。

わだち  
29号

わだち  
28号